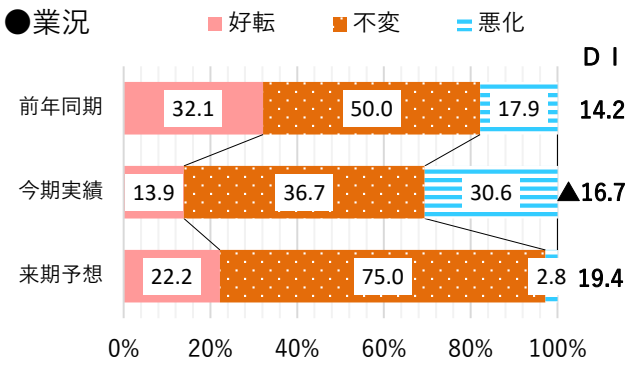
製　造　業

業況、売上、採算

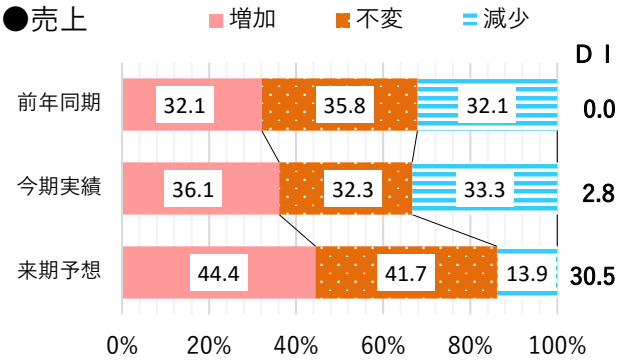
今期（2025.1～3）の業況判断DIは▲16.7で、前年同期（2024.1～3）と比べ30.9ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期（2025.4～6）の業況DIは36.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じると予想しています。



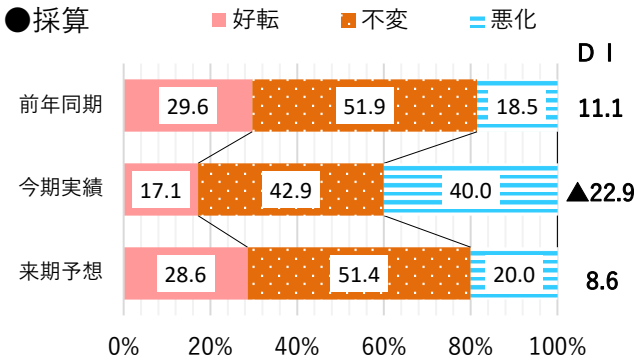
今期の売上DIは2.8で、前年同期と比べ2.8ポイント上昇しました。

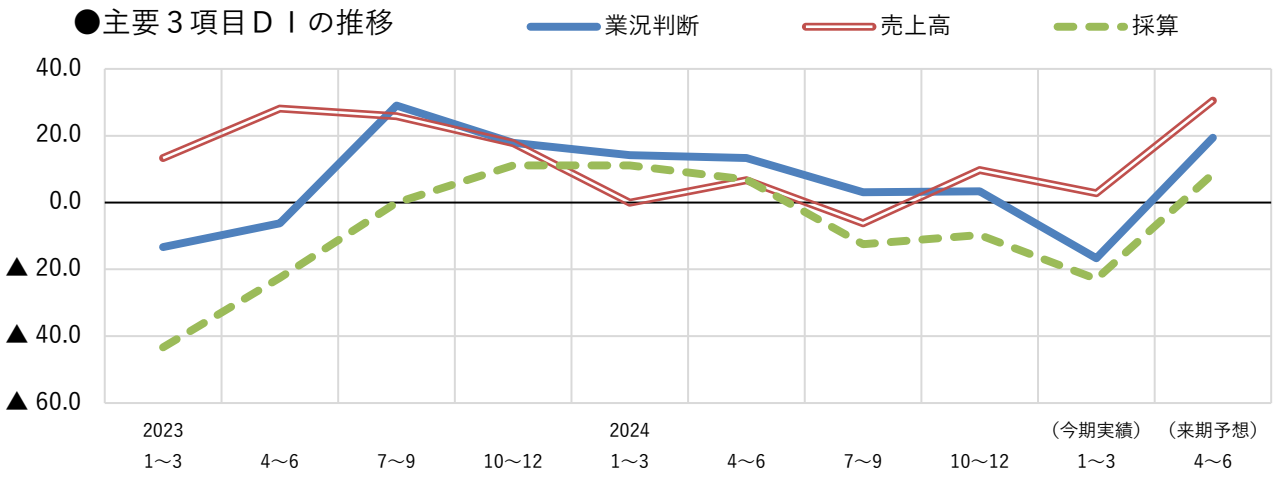
来期の売上DIは27.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲22.9で、前年同期と比べ34.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

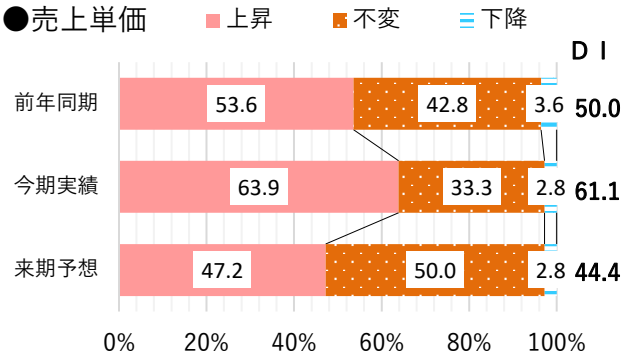
来期の採算DIは31.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じると予想しています。



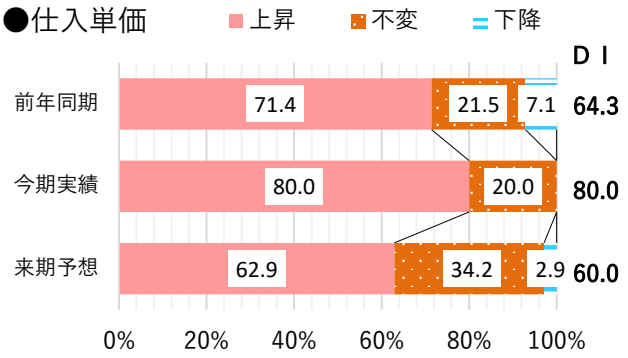


売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

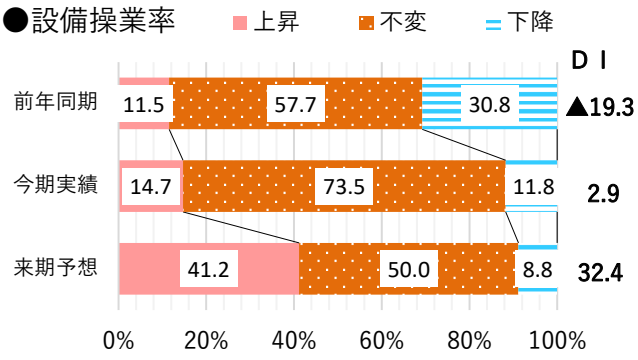
今期の売上単価DIは61.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。
来期の売上単価DIは16.7ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは80.0で、前年同期と比べ15.7ポイント上昇しました。
来期の仕入単価DIは20.0ポイント低下すると予想しています。

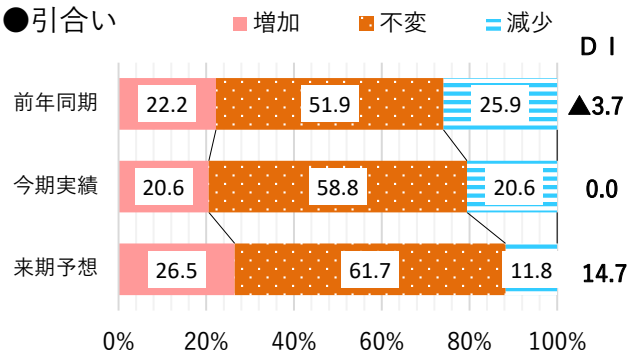


今期の設備操業率DIは2.9で、前年同期と比べ22.2ポイント増加し、プラスに転じました。
来期の設備操業率DIは29.5ポイント上昇すると予想しています。



引合い

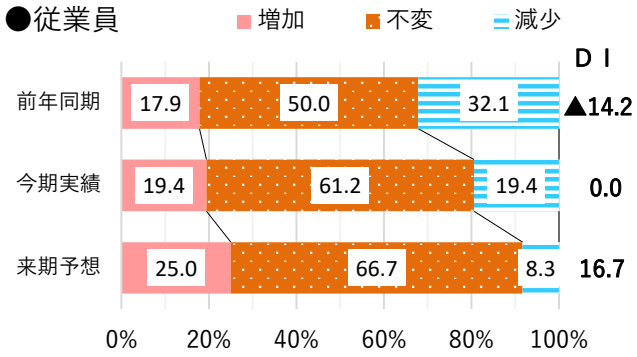
今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ3.7ポイント増加しました。
来期の引合いDIは14.7ポイント上昇すると予想しています。



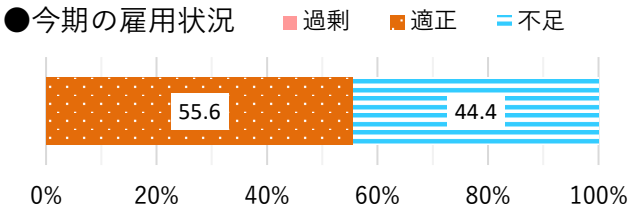
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは16.7ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は55.6％、不足していると回答した企業の割合は44.4％でした。



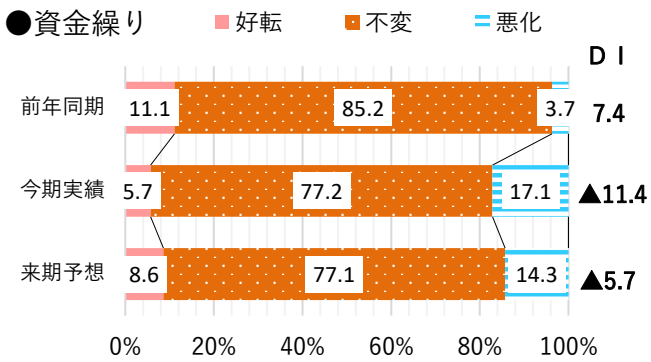
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、41.7%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

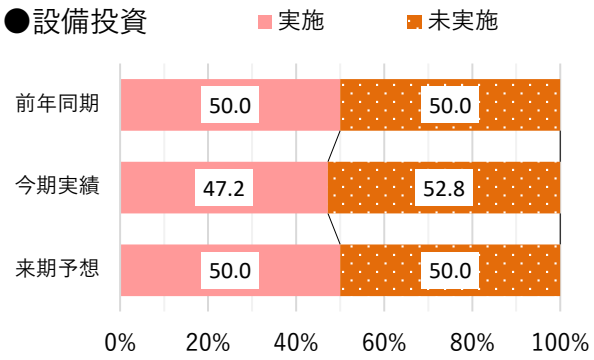
今期の資金繰りDIは▲11.4で、前年同期と比べ18.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期の資金繰りDIは5.7ポイント上昇しますが、引き続きマイナス水準と予想しています。



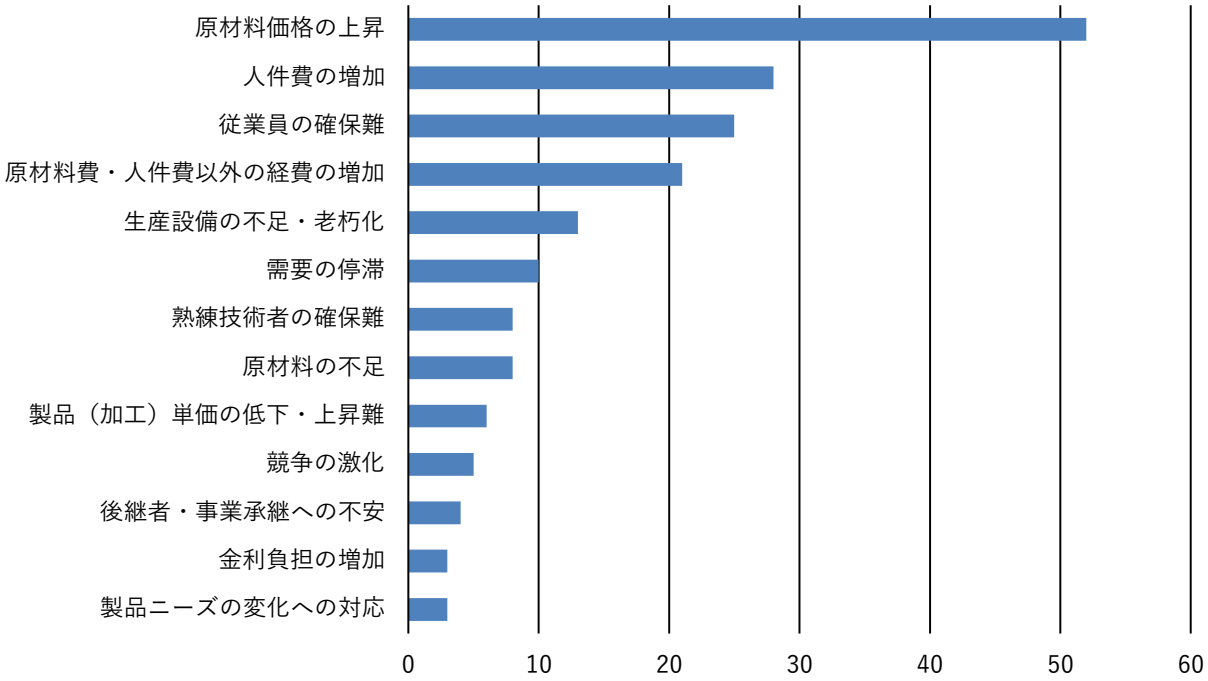
今期の設備投資は47.2%が実施と回答し、前年同期と比べ2.8%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期は50.0%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

［今期の業況について］

■自社の価格改定の実施、米、野菜、エネルギー関連の価格上昇、政治の不安定性、将来に対する漠然とした不安感等の複合的な影響で末端の消費意欲が減退していると思われる。（食料品）

■インバウンド向けの需要はやや旺盛となっているが国内旅行客向けの需要は減少している。東アジア向け輸出も通常運転に近い状況ではあるが伸びは感じられない。（食料品）

■原料原産地（オーストラリア・ニュージーランド）の天候・中東の引合いの強さ等により、羊肉原料が１年前に比べて高値が続いており動きが鈍い。（食料品）

■前年はコロナ禍が明けて、巣ごもり需要が減り売り上げ面で苦戦したが今期は少し持ち直した。（食料品）

■老朽化による機械の不良で交換、入替が多かったが、増産により機械の購入が増えた。（食料品）

■売上高の伸びなし。仕入価格、人件費、経費等が増加した。（食料品）

■仕入価格が上昇していたが小売価格に反映できずにいた。（食料品）
■生産（受注）は安定している。（食料品）
■３月は若干持ち直したが、１～２月は非常に悪かった。売上減で仕入はメーカーからの納品が前倒しであり、在庫増、資金を圧迫した。（金属製品）
■大型案件のほぼすべてにおいて着工時期遅れが発生しており、当初計画通りにことが進まない。結果、売上計上額に大きく影響した。（金属製品）
■冬の時期は受注量が減るが、今期は通常通りの稼働があった。（金属製品）
■原材料仕入れ価格は５％以上上昇、更に電力料金、物流費が上昇し、製品値上げを昨年春から交渉開始し現時点では交渉したほぼ全社が決着。但し人件費上昇分まで値上ができたとは言えないが、一旦値上交渉は終了する。人材確保・人材流出防止目的で賃上げ実施。今年度は４％の賃上げ実施、最低賃金には対応済。（プラスチック）
■原材料、電力料、運賃の値上と人員確保のための人件費増分の価格転嫁を行う。消費者の節約志向が高まっており、売上額は前年並みだが出荷量は落ちている。(プラスチック)
■売上単価は上昇するも、設計単価アップによる需要量減少。原材料の仕入れ単価は引き続き上昇の一途。従業員不足賃金見直しによる効果なし。（プラスチック）
■売上は増加したが、各資材（原料）価格等高騰により採算は悪化した。（紙製品）
■受注状況に対し、人手（労働力）不足である。（衣服）
■売上および利益において、特に変化は無い。昨年１０月～１２月期と同様に、安全靴は伸びているものの、工業用品関係の引合いおよび販売額が減少している。（ゴム製品）
■雇用状況は適正であり、最低賃金の動向を見極め、給与水準を検討していく。（ゴム製品）
■官公署向けの売上が多かった。材料費の高騰が続いている。従業員不足はタイミーを活用した。
（その他繊維製品）

［来期の業況について］
■自社の価格改定によりどれだけ仕入れ価格、諸経費、人件費の上昇を補えるかどうか、賃上げにより消費意欲が回復するのか、先行きが見通せない。（食料品）
■売上高は減少見込み、原材料等の製造原価の増加、人件費等の増加により減益が見込まれる。（食料品）
■小売価格のアップを計画中。（食料品）
■国内量販店向けの新規開拓を行っているので需要の伸びを期待している。（食料品）
■４～９月は毎年焼肉シーズンなので、悪いながらも売上は見込める。（食料品）
■今期同様、増産による機械購入及び人員確保が必要となる。（食料品）
■来期は季節要因もあり売上は減少見込み。（食料品）
■原材料費は高騰しているので値上げを行う。（食料品）
■来期の利益は微増を見込んでいる。（飲料）
■来季の工事も受注済みなので、問題は無いが、人材確保の問題があり、ハロ－ワ－クに求人募集をかけても、面接すらきてもらえないのが現状で、苦労している。（金属製品）
■大型案件が遅れながらも動き出してきており、やや明るい見通しにはある。原材料価格（鋼材価格）はしばらく上昇傾向が続いたが、ここにきてやや落ち着いている。（金属製品）
■若干需要増の見込、引合いも増加傾向である。（金属製品）
■製品値上げが今期で完了し、併せて新規需要開拓もできており、来期は増収を予想する。仕入価格は微増と予想。来期は5%の賃上げ実施予定。（プラスチック）
■事業安定の為、前年度並みの賃上げと省人化に向けての設備投資を行う。それに伴い借入金利上昇から支払利息は増加する。(プラスチック)
■値上げをしたので、売上は増加見込である。賃上げや従業員数増のため経費は上昇見込である。(紙製品)
■受注量増大に対し、労働力不足である。（衣服）
■官公署向けの受注は多いが、資材の入荷次第では作業が後半にずれ、外注費、人件費の増加の可能性が大きい。材料費の高騰、特に防災加工用の薬材がほぼ中国からの輸入のため影響が大きい。
（その他繊維製品）